

才四章 太原攻略戦

一、軍は十月四日石家莊附近の敵陣地に対する攻撃命令に於て才二十師団は滹沱河々畔の敵を攻撃後奮力なる一掃を正太鉄道に沿ふ鐵路を太原方向に追撃し可成速く該鐵道を確保せしむる如く部署せしむ。十月六日方面軍は才一軍に滹沱河を以て井陘以西の橋地に進出し敵の山西方面に対する交通を遮断すると共に爾後才五師団に策應せしむべき事を命令せり。才五師団は太原攻略の任務を有しあり。二、才二十師団の右側支隊は滹沱河渡河攻撃後十月十三日井陘を占領し其裡登部隊は旧關に達せるも爾後優勢なる敵に対し戦況發展せざるもの、如く才二十師団は十四日夜取攻へず歩兵一大隊山砲一中隊を石家莊附近に集結せる師団主力より井陘に急派し同支隊に増加せり。軍は十月十四日命令を下し十三日来忻口嶺附近の敵陣地を攻撃中なる才五師団の太原攻略に策應する為才二十師団長をして其右側支隊に歩兵三大隊獨立山砲兵兩隊の主力其他所屬の部隊を増加し才五師

圖の太原攻略に策應せしむる目的を以て先づ瀋陽平地に進出せしむ

三才二十師団は右命令に基き更に歩兵二大隊、十榴一大隊等を右側支隊に増加し同部隊は十七日石家荘附近を出發西進す。經遼寧隊は旧陣方面に於ては同地を確保しあること判明せるも通都方面の状況未だ判明せず憂慮しありしが右側支隊に派遣せられたる才二十師団は謀の報告により漸く該方面の状況明瞭となれり。經遼寧隊は井陘より經登部隊主力を以て新開方面に約守大隊を以て鐵道線路に沿ふ地区を娘子関に向ひ前進せしめしが主力方面に於ては大なる抵抗を受くることなく十三日旧開に達せるも鐵道線路方面に於ては井陘西側高地の敵の抵抗を受け爾後前進し得ず經登部隊長は該方面の敵の退路遮断の爲旧開より才三大隊主力に山籠一門を附し地都に前進せしめたり同隊は十四日地都附近にて優勢なる敵に四圍を包圍せられ多敵の損害を生ぜる為敵線を突破し旧開に懸來せり此間經遼寧主力は新開

の敵を攻撃し同國西方高地より曾桃白馬及其東南方高地に進出せるも旧國、井陘道南關高地の河嶺式陣地には尙敵兵殘存しあり

四月十七日方面軍命令により才一軍は有力なる一部を以て速に正太線方面の敵陣地を突破し檢次附近に進出して才五師団の太原攻略を容易ならしむべきを命ぜらる

五月十八日

右側支隊は歩兵六大隊、山砲兵一聯隊、十榴一大隊、迫撃砲一大隊、輕裝甲一中隊、工兵一中隊等を井陘同關間に集結せるを以て十九日より輕登部隊をして依然新關の敵を攻撃せしめ歩兵二大隊、山砲一中隊十榴一大隊、迫撃砲一中隊等を以て井陘西方高地の敵を攻撃し娘子關方向に進出して同地附近の敵を攻撃せしむ

六月十九日 快晴

才二十師団右側支隊は井陘西方の敵を攻撃し概ね懸渡南北の線に進出せり

才五師団は依然折口嶺附近の敵を攻撃中にして折場東西の嶺及太原
五六
岡運の地区には敵の工事あり又五台附近に在りし敵は娘子関方面に
転用せられつゝあるの状況に鑑み軍は才二十師団に命ずるに陽泉平
地を攻略すべきを以てせり

十月二十日 晴

才二十師団は娘子関附近長城線の敵を撃破したる後陽泉平地を攻
ずるに決し右縦隊一歩兵六大隊、野砲二大隊、十五榴二中隊、山砲
一大隊、迫撃二中隊基幹は井陘——新開——石門口道方面及其以
北の敵を攻撃せしめ左縦隊一歩兵四大隊、山砲一大隊、迫撃一中隊
基幹は微水鎮——測魚鎮——石門口道に沿う地区を当面の敵を撃
破しつゝ右縦隊正面の敵の背後に進出し右縦隊の攻撃を容易ならし
め爾餘の部隊は先づ井陘附近に集結する如く部署す

十月二十一日乃至十月二十五日

十月二十一日方面軍命令に依り才一軍は才二十師団の外才百九師団

の歩兵一旅団（一聯隊欠）山砲兵一大隊、工兵一中隊を基幹とする部隊を以て速に才五師団と協力して太原平地を略取すべきを命ぜらる。當時才五師団は依然忻口嶺の險陣地を力攻めなりしが同命令に依り当面の險陣地を奪取せば戦力の恢復尤更に勉め十分なる準備を整へたる後太原の攻略を開始すべきを命ぜらる。

十月二十二日軍は右方面軍命令に基き新に配属せられたる才百九師団の部隊を昔陽支隊と名付け資皇——九龍關——昔陽道方面より昔陽に向ひ攻撃せしむ然るに才百九師団は當時唐山附近に集結し在りしが盂陽河附近の作戦間馬匹の損耗甚しく為に昔陽支隊の山地作戦の為師団内の健康馬の大部を融通せる外才一軍司令部よりも相当の馬匹を交付し編成を速かならしめんとしたるも即急の出發は期待し得ざる状況なり

軍は二十二日山西作戦の為特設山砲兵大隊及特設野戦重砲兵中隊（十五加）の編成を命ず

十月二十一日才二十師団は石家莊附近出發勇躍前進す

三八

右縦隊は莊頭西南方高地及倭桃園西北方高地を逐次攻略し又二十四日には激戦の後倭桃園東南方一〇六六高地を奪取せり

左縦隊先遣隊は二十四日七豆村附近に於て敵を奇襲し馬山村に退出せり又二十五日東回嶺南北の線に在る敵に對し快勝を博せり

九月二十六日霧、曇後小雨あり

右縦隊の右才一線は此日攻撃を開始し午前九時三十分頃葦沢岡北側より西北方後線の敵陣地を奪取して追撃し午後三時頃娘子關を占領せり

左縦隊は更に松溝村附近に於て約二師の敵を撃滅して北面し一三八七高地一東回嶺北方約二里一及柏木井を占領して娘子關方面の敵の背後に退出せり

才二十師団長は此夜命令を下して右縦隊中鉄道線路方面に在る部隊を右追撃隊とし陽泉平地に向ひ追撃せしめ左縦隊を左追撃隊となし

反転して柏井駅を経て平定に向ひ急進せしめ師団本隊は新開より平定に向ひ前進せしむる如く部署す
軍は娘子關陥落を激とし其戦果を擴張し一帯太原平池を攻略する為才二十師団をして続いて敵を攻逐し先づ滹沱南方地区に向ひ進出し
て太原平池を攻逐せしめ昔陽支隊は昔陽に於て才二十師団長の指揮
に入らしむ、別に十五窟一聯隊十加一大隊、迫撃砲二中隊、架橋材
料一中隊を平漢沿線方面より抽出して山西作戰に使用する如く部署
す

七月二十七日 曇後晴

滹沱方面に在りし輕歩隊は朝來攻逐前進を開始し直に新開附近を
突破し柏井駅に向ひ進逐す

右追撃隊は一部を以て巨城鎮西北方高地の敵を主力を以て上懸石橋
方高地の敵を逐逐せり

左追撃隊は夕刻小橋堡附近に進出し石門口南方地区の敵に對し夜間

三九

攻襲を続行し之を殲滅せり

此日方面軍命令により才百九師団（歩兵才百十八旅団及騎兵大隊）を軍の指揮に属せられ速に平漢線西方山地方面よりする太原平地攻略に使用すべきことを命ぜらる

十月二十八日 曇

軍は新に配属せられたる才百九師団をして速に出発準備を完了し、皇——九龍關——昔陽道を先づ昔陽に向ひ前進せしむる如く命令す。師団は先づ昔陽支隊に健康馬を交付したる為山地作戦の為多数の駄馬不足せる為編成に時日を要し十一月一日にあらざれば唐山附近を出發し得ず、編成の為或は師団輜重の駄馬を融通し或は才一軍より補充を受けたる支那馬を充当する等苦辛少なからず才二十師団は繪次兩方地区に進出すべき軍命令に基き陽泉平地向攻略せば所要の補充を行ひ爾後太原平地向ひ進軍するに決し右進軍隊の一部を辛夷嶺に、左進軍隊の一部を馬道嶺に向ひ進軍せしめ爾餘の主力を陽

泉及平定附近に集結する如く懸念す

同師団左追撃隊は西郊村附近に陣地を占領せる約一師半の敵を攻逐中にして師団は砲兵主力を之に協力せしむ又右追撃隊は乱柳村附近の敵を攻逐中なり

十月二十九日 快晴

才二十師団左追撃隊は敵を潰乱に陥らしめ午後平定城を占領す右追撃隊は楊家庄南側高地より白羊壁に亘る間の敵を攻逐中なるを以て師団は左追撃隊の一部を陽泉方向に派遣し右追撃隊正面の退路を遮断せしむ

昔陽支隊は元氏附近にて前進準備を完了し本日同地附近を出発し西進す

十月三十日 晴後曇

才二十師団は陽泉を占領す

師団が陽泉平地に一時停止し爾後の追撃を準備せんとせる様一に備

四一

給の關係之を許すに至り一季糧次附近に進出せんとするに在りしを
以て軍は極力彈藥糧食を前送し又後方蕃備を他部隊に担任せしむる
等師團の進進力を附与することに努めたり

昔陽支隊は九龍関附近に進す

此日方面軍命令に依り才百八師團の一部を所要に依り太原攻略の爲
使用すべきを命ぜられたるを以て道州に在りし歩兵才百四旅團主力
の宿營地を獲麻、微水鎮の間に移し太原方面に作戦するの準備をな
さしむ

西十月三十一日 快晴

才二十師團右追撃隊は辛興鎮附近の隘を突破して滎石城北方高地に
進出せり、師團は敵隊をして引続き寿陽に向ひ追撃を強行せしむ

西十一月一日 快晴

才二十師團右追撃隊は辛興鎮、陽泉間に於て追撃準備中
なり

才百九師団主力は唐山附近より行動を開始し先づ元氏附近に移動せ

天十一月二日 晴後曇

才二十師団は折口鎮方面の状況偵察として変化なく師団の補給も概
ね成算を得たるを以て更に命力の進軍を続行し太原平地に進出する
為右追撃隊をして寿陽に止るとなく引続き鳴謙鎮附近に向ひ急追
せしめ左追撃隊主力は明三日平定附近出發馬道鎮——松塔鎮——不湖——
潞次道に沿ふ地区を潞次附近に向ひ急追せしめ師団本隊は翌日平定
出發右追撃隊の後方を張静鎮に向ひ追撃する如く部署せり
此日夕刻騎兵隊及右追撃隊の一部は寿陽に進入す
昔陽支隊は昔陽東側に於て敵を撃破し本日昔陽に進入せり
才百九師団は元氏に到着す

十一月三日 快晴

折口鎮方面才五師団正面の敵兵昨夜乘船退却に移り才五師団は之を

四三

追撃中なり

才二十師団は才五師団方面の状況好転せるに鑑み右追撃隊に野備兵聯隊主力を追及配属し同追撃隊は寿陽に止ることなく万難を排して追撃を続行すべきを更に要求せり同師団左追撃隊は午前沾尚鎮午後廣陽鎮附近の敵を殲滅し前進せり

夜方面軍命令を受領す、之に依り才一軍は自今才五師団一配属部隊旧の如しを併せ指揮し太原及太原平地を攻略すべきを命ぜらる

十一月四日 快晴

軍は才五師団を新に配属せられたるを以て太原平地の敵を殲滅し同平地を領有せんとし才五師団をして太原を攻略し統て一部を以て汾陽附近に向ひ追撃せしめ才二十師団をして一部を以て濬次西北方地区を占領し太原東南方陣地に対し監視せしめ主力は濬次附近進出後統て介休附近に向ひ追撃せしめ一昔陽支隊は先づ濬次に進出せしむ才百九師団は昔陽支隊の進路を先づ濬次に向ひ前進せしむ才百九師

團は本日元氏出發昔陽に向ひ前進を開始せり
才二十師團の騎兵隊は夕刻榆次を占領し右追撃隊は夜先頭を以て鳴
謙鎮附近、左追撃隊は松塔鎮附近に進出せり

十一月五日 曇

才五師團の果敢なる追撃は大いに進展し其追撃隊は午後陽曲都附近
に進出せり

才二十師團右追撃隊は鳴謙鎮及鳴李村附近に於て榆次方向より太原
東南方既設陣地に向ひ北上する約二師の敵に対し殲滅的打撃を与へ
小店鎮方向に繞りて前進せり又左追撃隊は西洛鎮附近に進出

十一月六日 晴

才五師團は太原城前面に達し攻撃を準備すると共に開城を勸告せり
才二十師團右追撃隊は小店鎮附近に於て汾河西岸の敵を攻撃し退却
中の約一万を下らざる敵縦隊に砲撃を加へ多大の損害を与へたり又
左縦隊は榆次の殘敵を驅逐して其兩方地区に進出す、師團司令部は

四五

本夜滌次に入城せり

四六

軍は京漢線方面に於て宋哲元軍の敵ヶ師大名附近以北に進出し攻勢的態度に於てある状況に鑑み太原平地截定を強とし該方面の敵を撃滅するに決し才二十師団をして一部を以て平遙に追撃せしめ主力は太谷以北の地区に集結して石家莊に転進するの準備をなさしむ又太原城は占領の目途立ち一方に於て平漢線方面の状況に鑑み井陘附近に集結しありたる才百四旅団、十五榴部隊、特設山砲兵大隊、追撃大隊等は西方に向ふ前進を中止せしめ各々平漢線方面の新任務に就かしむる為転進せしむ

二十、十一月七日 快晴

才五師団は明八日総攻撃を開始する為諸準備を整へあり
才二十師団右追撃隊は小店鎮附近に在りて何時にても才五師団の太原攻撃に応じ得るの準備を整へあり左追撃隊は太谷を攻撃し之を占領せり又師団主力は滌次附近に集結中なり

昔陽支隊は正午頃より廣陽村附近に在りし約二千の殘敵を殲破せり
方面軍命令到着し才五師團を平漢線方面に転用すべく命ぜらる
二十五、十一月八日 快晴

才五師團は午前八時より總攻撃を開始し午前九時過ぎ城壁を完全に
占領し繞て城内の殘敵を掃蕩中なりとの報あり茲に太原攻略の目的
は完全に達せられたり

二十五、十一月九日以後

才五師團は太原城内の掃蕩を概ね終り其の一部は十一月九日清源に
進出せり

才二十師團左追撃隊は追撃を続行し十一月十日平遙を占領せり

昔陽支隊は十一月十二日昔陽附近に進出せり

才百九師團は十一月九日昔陽に到着し同地に歩兵一大隊を基幹とす
る守備隊を遺置し十一月十二日出発西進し十六日樞次附近に進出せ
り

十一月十二日軍は方面軍命令に基き才五師団を石家莊附近に転進せしむる命令を下達せり

二五 太原攻略戦に於ける各兵団の死傷状況に事へたる損害は別表の如し
二五 太原攻略戦経過別紙要図の如し

1530

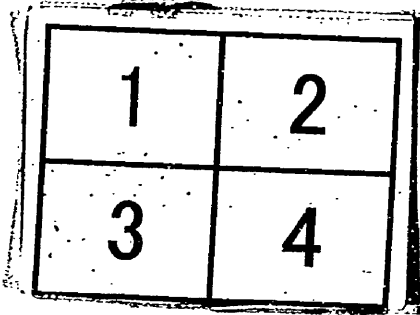
別表

		太原攻略戦戦死傷概数表		才一軍々医部調	
		区	分	戦	死
備考	才五師団	才一軍に配属後のものを区分し調査しあらざるに付茲には記載せず			
	才二十師団		四一三	一二四二	
	才百九師団		二二	七一	
	軍直屬部隊		四	七	
	計	四三九		一三二〇	

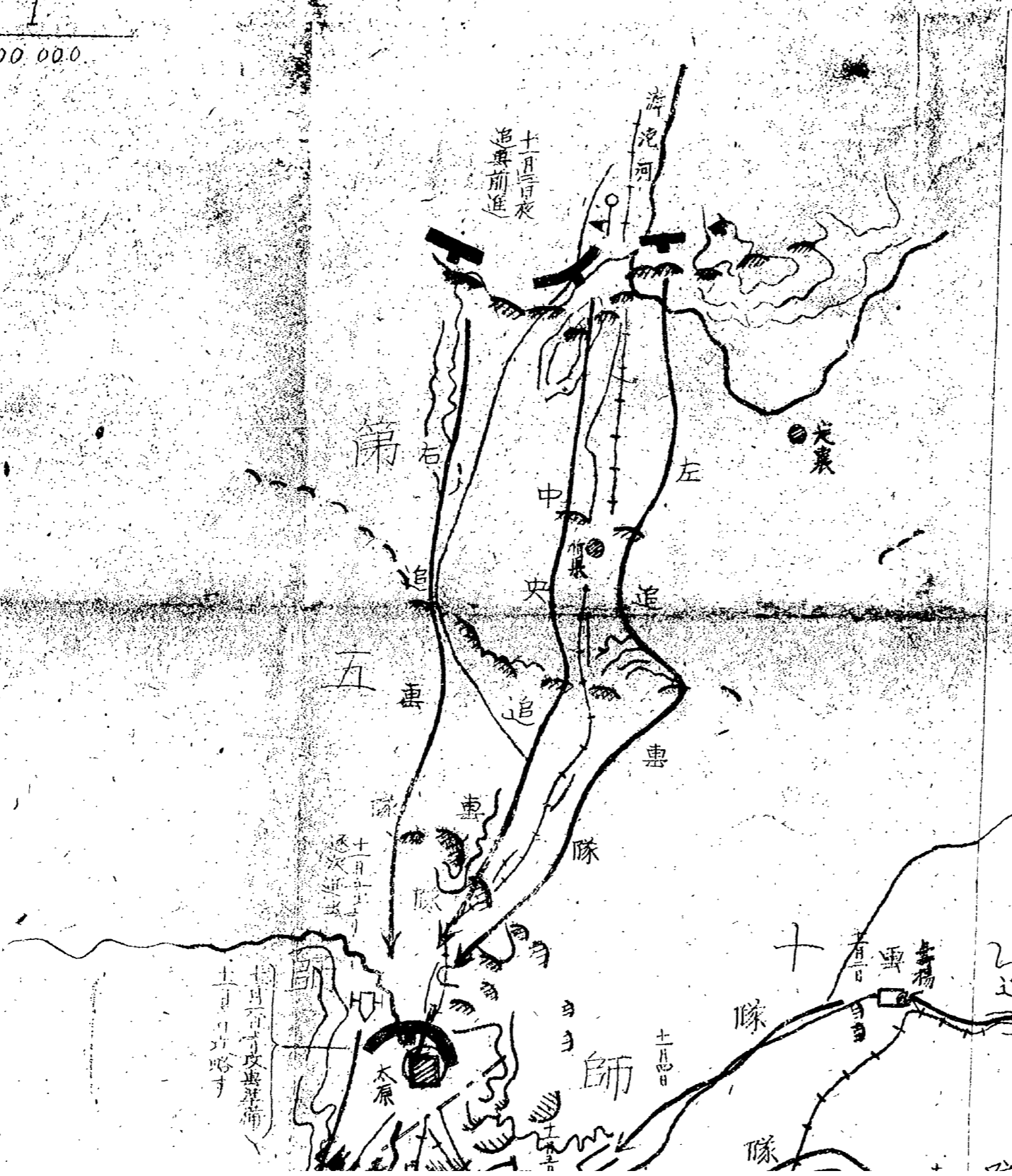
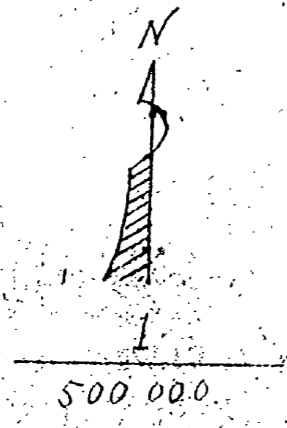
本表は各部隊の報告により調査したるものなるを以て必ずしも正確を期し難し

備考 各兵団よりの報告に基き記載す	計	才百九師団	才二十師団	才五師団	区分	太原攻略戦敵に与へたる損害概数表
	七四一〇〇	一七〇〇	四四九〇〇	二七五〇〇	人員	
					押収兵器	
					後に續めて記載す	

分割撮影ターゲット

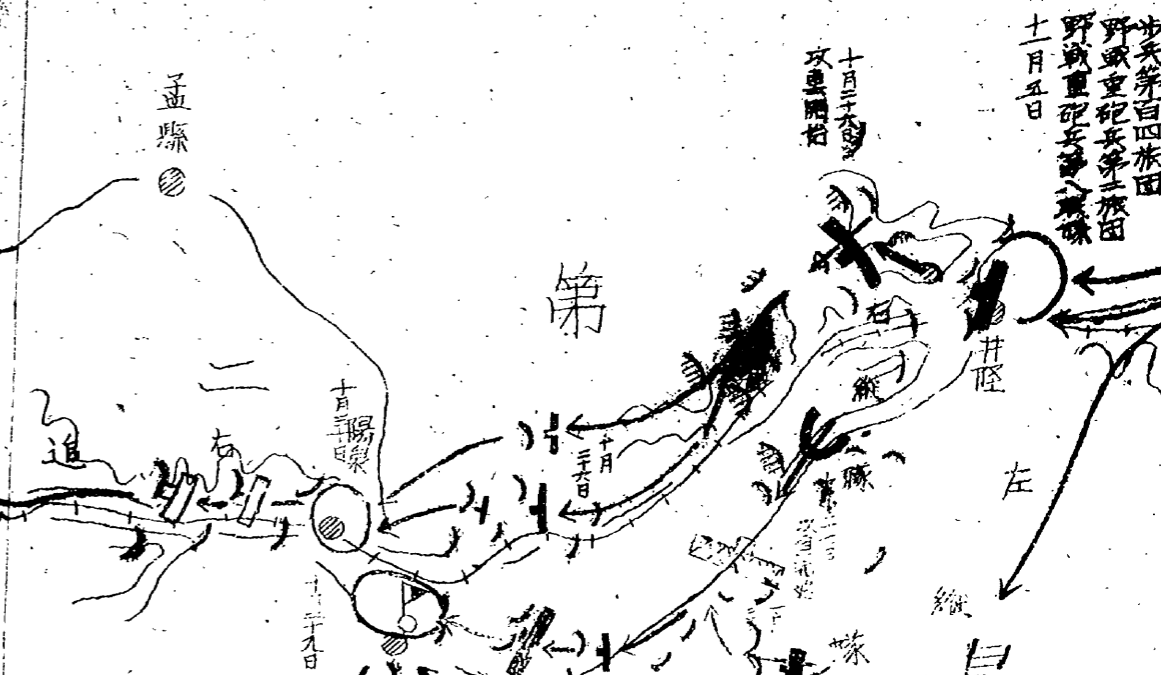
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A3版以上のため
文書等名	第一軍太原攻略戦 作戦一覽図 (自十月十九日至十一月十日)
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

1533
1534
1535
1536



第一軍太原攻略戰作戰一

(自十月十九日至十一月十日)



第一軍太原攻略戦作戦一覽圖

(自十月十九日至十一月十日)

備考

- 一、軍は十月十九日第二十師団を以て昔陽泉平地を攻略せしむ。
- 二、軍は十月二十二日昔陽を以て昔陽に向ひ前進し敵を攻撃せしむ。
- 三、軍は十月二十六日城平岡の陥落を以て一帯に太原平地を攻略するに決し第三十師団を昔陽進出線其の指揮に属し野戦重砲兵第二旅団(第五隊隊員)独立野戦重砲兵第二旅団(第二隊隊員)中隊と右軍莊に集結し軍直轄たりしむ。
- 四、軍は十月二十八日第二師団を指揮に属せしむるを以て同師団を以て昔陽に向ひ前進せしむ。
- 五、軍は十月三十日第五師団を指揮に属せしむるを以て同師団を以て昔陽方面に作戦するの準備一切を以て汾陽に向ひ進軍せしむる第二十師団を以て一師団を以て榆次西北方地区を占領し軍直轄として一師団を以て平遠に追要せしむる主力は太原以北の地区に集結ししむ。
- 六、軍は十月四日第五師団を指揮に属せしむるを以て太原方面に作戦するの準備一切を以て汾陽に向ひ進軍せしむる第二十師団を以て一師団を以て榆次西北方地区を占領し軍直轄として一師団を以て平遠に追要せしむる主力は太原以北の地区に集結ししむ。
- 七、軍は十月六日太原平地を以て速に一部兵力を全平地より抽去し平遠線方面に集結ししむる第二十師団を以て一師団を以て平遠に追要せしむる主力は太原以北の地区に集結ししむ。



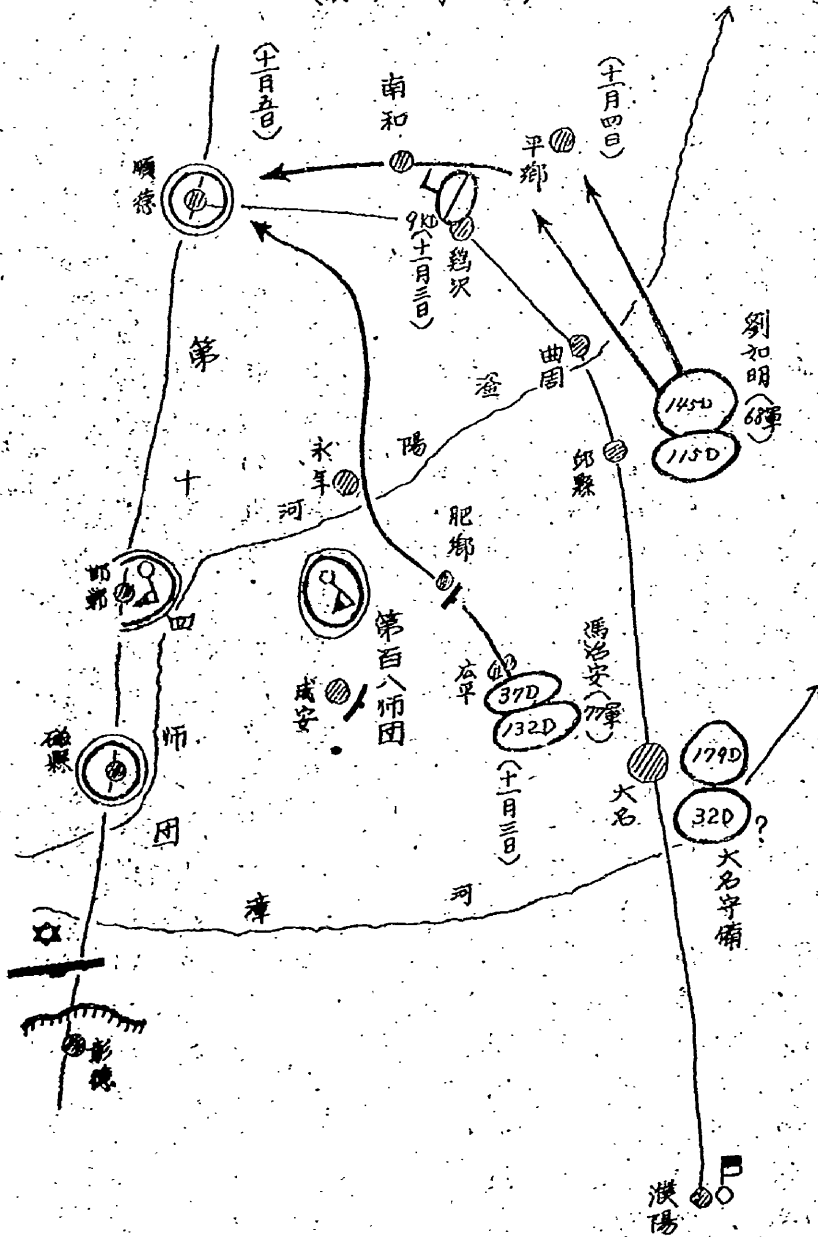
才五軍 宋哲元軍滬陽戰

一、本會戰は石家莊及滄陽河附近の會戰後滬陽附近に後退せる宋哲元軍が我が才六、才十六師団等が上海方面に転進の爲石家莊附近より汽車輸送せられ又才二十師団、才百九師団、才百八師団の一部が逐次太原攻略戰の爲山西省内に西進せる爲日本軍は順德以北に於ては兵力手薄となりあるものと判断し此機を利用して我後方を擾亂し状況の許す限り石家莊附近を恢復せんとして滬陽より大名附近を経て北上し順德東方地区に遷せるも我軍の反攻に遭ひ長驅黃河南岸に後退せるものなり

二、十月二十五日迄の諸情報を綜合するに宋哲元は滬陽に在るが如く十月二十五日各軍師長に対し「軍は爾後北進し汝の財面を攻奪するに決す河北に玉碎するも河南に瓦全せず」と通告せり爾後宋哲元軍は大名附近を経て北上し十一月三日頃迄は左圖の如き態勢に在りて順德に向ひ攻襲の企図を有す

宋哲元軍態勢及企圖要圖

(於十一月三日)



五二

1538

三、茲に於て軍は十一月三日宋香元軍を主体とする約八ヶ師の敵は一部を以て彰徳方向より主力を以て大名方向より磁樂及邯鄲に向ひ進軍の企図を有し一部は彰徳、湯陰間の地区に、主力は大名附近に集結を終れるものと判断し此敵の近接を待て之を撃滅するに決し才十四師団をして先づ彰徳を占領し敵の攻勢企図を撃碎したる後一部を以て同地を確保せしめ殘餘主力を邯鄲磁樂臨漳の間に集結し類を見て才百人師団正面の敵の背後を攻撃し之を撃滅せしめ才百人師団をして一部を以て成安附近、主力を以て肥郷附近に位置し敵主力の近接を待て之を攻撃し廣平附近に撃滅せしむ而して兩師団の東方に向ふ進軍の眼度は旧魏縣東側地区及廣平東側地区の線とし大名は之を攻撃せず戰事目的達成後は才十四師団は邯鄲、磁樂、彰徳の間に、才百人師団は肥郷成安の間に兵力を集結せしむ

四、十一月四日 快晴

才十四師団湯陰東進は彰徳方面進軍し之を合撃す

三三

軍は順徳附近に在りし状況に鑑み石家莊附近に在りし歩
兵才百五聯隊（約半部欠）等を順徳に派遣し才十四師団長の指揮に
入れ順徳を守備せしむ

同隊は鉄道輸送に依り急進し四日夕刻順徳附近に集結を終れり

五月五日 曇

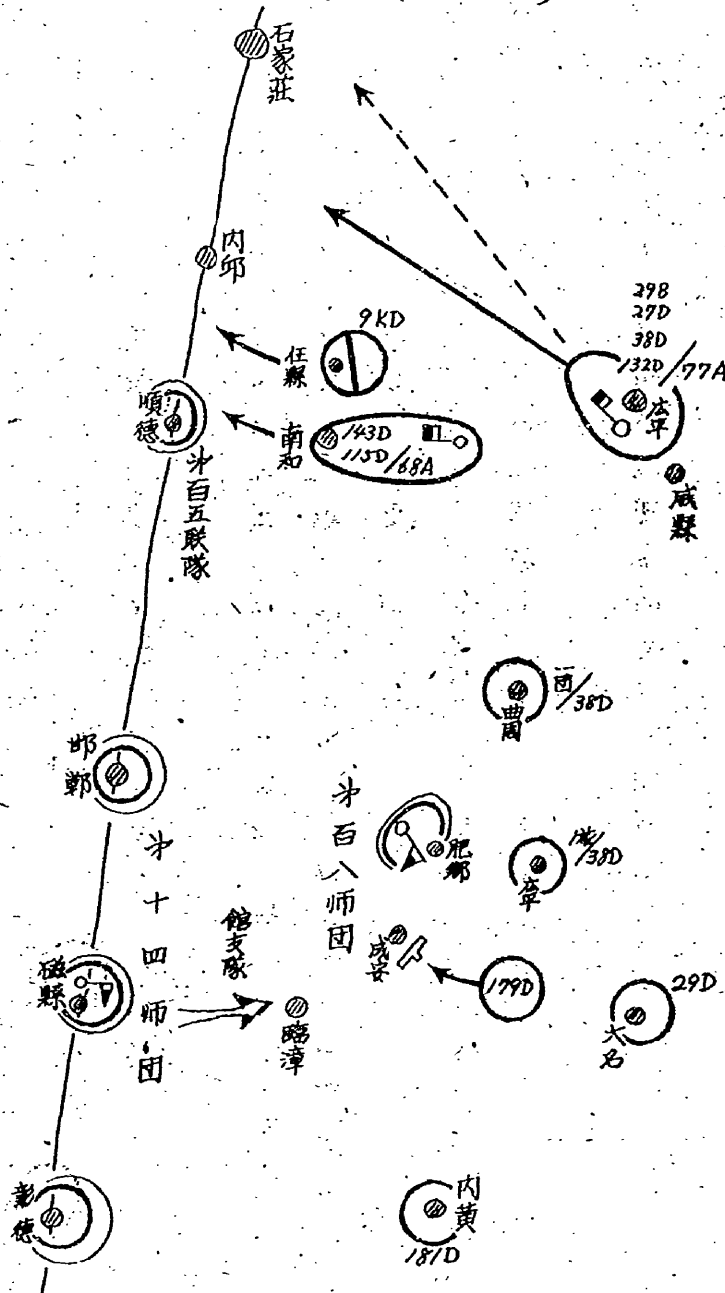
才十四師団は酒井支隊一歩兵三大隊野備一大隊基幹一を以て彰徳に
位置し館支隊一歩兵四大隊野備二大隊重備二大隊基幹一を臨漳附近
に集結し大名方向に對し攻撃を準備せしむ

才百八師団は肥郷、成安、李渡塔間に位置し廣平南北の線及成安東
方に於て活氣を呈し來れる敵に對し反撃を準備しあり

五月六日 晴

此頃における宋首元軍の配置並全圖概ね左圖の如し

宋哲元軍態勢及企圖要圖
(於十一月六日頃)



軍は太原平地の戦勝を機とし進んで才十四師団、才百八師団を以て
当面の敵を攻撃するに決し才十四、才百八師団をして旧魏県、廣平
の線に進出後大名攻撃の準備をなさしむると共に当時井陘附近に在
りたる歩兵才百四旅団一歩兵才百五聯隊等欠一に山龍、重砲を配属
して内邱に鉄道輸送後南和附近に現出せし敵を攻撃し鶏沢以南に退
讓せしめ別に井陘附近に在りし重砲は邯鄲に鉄道輸送し才百八師団
方面に使用す又太原平地より一兵団を速かに此方面に転用するの必
要を認め才二十師団をして滹次附近に集結し石家莊に転進するの準
備をなさしむ

七十一月七日 快晴

昨夜来官莊一帯に敵は歩兵才百五聯隊よりの増援
により之を擊退せり鉄道、通信に若干の損害を受けたるも既に復旧
せり

才十四師團館支隊は臨漳に到着す

五六

才百八師團主力は武安を攻勢中の敵に反撃を加へ之を撃退せり

歩兵才百五旅團主力は逐次内邱附近に集結中なり

八十一月八日 快晴

平漢線方面の状況に鑑み急に慮する為の豫備隊皆無なりしに因り軍は才二十師團の歩兵二大隊を自動車輸送により石家莊附近に集結し軍直轄たらしむべく命令す

才百八師團は廣平西方の東孟固附近にて敵の抵抗に会し之を力攻中なり

才十四師團館支隊は旧魏県に師團長は臨漳に到着せり歩兵才百五師團は順徳より南和方向に前進し河郭鎮附近にて優勢なる敵に対し攻撃を開始せり

九十一月九日 快晴

才十四師團館支隊は旧魏県より大名方向に前進中なり

才百八師團は依然東孟固附近の敵を力攻中なり
歩兵才百五聯隊は依然河部嶺の敵陣地を攻置中なり
歩兵才百四旅團は任果方向の敵を攻置する為内邱より前進を開始せ
り
軍は才十四、才百八師團方面の状況に鑑み才十四師團をして大名を
攻略せしめ成功後は一部を以て同地を確保し敵の退路を遮断せしめ
主力は微果附近に復帰せしめ才百八師團は廣平占領後は邱果方向に
向ひ敵主力を攻撃せしむ又順徳より東方に攻置中の歩兵才百五聯隊
長の指揮する部隊は才十四師團長の指揮を脱し歩兵才百四旅團長の
指揮に入らしむ

十一月十日 快晴

才十四師團館支隊は大名附近に還し攻置を準備す
才百八師團は東舌固附近の敵を撃破し廣平攻置の為廣平南方地区に
転進す

歩兵才百四旅団は任果を占領し爾和に向ひ追撃中なるも其歩兵才百
五聯隊は河郭鎮附近の敵に対し攻撃尙進展せず

五八

去十一月十一日

才十四師団簡支隊は本日大名を攻撃し夕刻之を占領せり
才百八師団は南小流一廣平兩方一附近の敵を攻撃中なり
歩兵才百四旅団の才百五聯隊は河郭鎮を奪取し任果方面に於ては百
泉河の線に進出し攻撃準備中なり

去十一月十二日 快晴

才百八師団は南小流附近に於て北面し北小留買庄、廣平の線に在る
敵に対し攻撃準備中なり部隊に下車し追及中の重砲の先頭本日到着
す

歩兵才百四旅団は百泉河の線に於て激戦中にして或は左翼任果を奪
回せられ之に対し回復攻撃し或は爾和に対し力攻せるも未だ抜く能
はず波瀾に富みたる戦斗を突進中なり軍は茲に於て石家莊より部隊

向ひ鉄道輸送中の重砲の一部を順徳に下車せしめ歩兵才百四旅団に配属す

昨十一日沙河鎮に敵兵進入せるも順徳守備隊は重砲の協力を得て本日之を逐退せり

才二十師團より転進せる歩兵二大隊石家莊に到着す

十一月十三日 快晴

才百八師團は本日廣平を占領し邱果方向に追撃に移れり

歩兵才百四旅団は任果南和一帶の嶺を潰滅し鷄沢方向に追撃なり

昨復轉轉飛行場の一部の破壊並し乘り我に若干の損害あり是彰徳西

房嶺地内に在りし開騰機車の北上し鉄道沿線に進出して後方擾亂を

企圖せるものにして邯鄲西方に約一師機果西方に約一師備結しあり

又飛行機の報告に依り本朝武安南方地区を西進する有力なる敵兵あり

るを知り萬一を慮り石家莊より歩兵一大隊を急派し又宛も邯鄲北に

下車せる重砲を一時守備隊に配属す此後邯鄲附近は敵兵來らざりし

五九

も郵郵、礮果間の小駅は敵の襲撃を受け鉄道通信に若干の損害あり

西十一月十四日 晴

才十四師団は館支隊一歩兵三大隊、野砲二大隊基幹一を曳置し爾處を礮果に帰還せしめ本日到着せり

軍は宋五元軍主力の退路に逼らしむる為才百八師団をして礮果に向ひ追撃せしめ歩兵才百四旅団は常河鎮附近に進出後才百八師団長の指揮に復帰せしむ

西十一月十五日以後の状況

十一月十五日才百八師団は礮果を占領し十六日礮果に到着せり

歩兵才百四旅団は釜陽河々畔の懸崖を襲して東進し十八日礮果に到着して才百八師団長の部下に復帰せしめ師団長は十六日館陶、臨清附近衛河の流に向ひ追撃すべき軍命令を受け之に基き十九日中野支隊一歩兵二大隊、野砲二大隊基幹一を臨清に、工藤支隊一歩兵二大隊、野砲一大隊基幹一を館陶に派遣し師団主力は濰縣並防務軍旅の

卸著後威果より請遣する如く部署せり

十六日夜来風又は雨の日続き二十一日漸く天候恢復せるも氣温降下し道路泥濘となり行軍には極めて障礙を呈する状態となれり十一月二十四日軍は命令を下し才百八師団をして準備完了後衛河南岸に退避せられたる宋西元軍を清査、觀城の線以南に退避せしめ才十四師団をして大名に在る一部を以て才百八師団の作戦に協力するの準備をなすと共に才百八師団の爾樂、朝城附近進出後大名を經由する補給の爲大名附近に架橋せしむ

十一月下旬より天候恢復し道路の景況も行動を許すに至れるを以て十二月四日命令を下し才百八師団をして十二月八日以後作戦行動を開始せしむ

才百八師団主力は十二月五日威果を出発し六日臨清附近に集結し十二月八日臨清、臨清の線を出発し一部一歩兵二大隊野砲一大隊重砲一中隊基幹を以て臨清——冠果——朝城道を爾餘の主力は臨清——

六一

堂邑——朝城道に沿ふ地区を二隊となり前進し八日王集鎮附近に於て九日堂邑附近に於て各々若干の敵を攻没して十一日朝城に達し十三日同地より南樂、清豊に各々支隊を派遣して主力は觀城に向ひ前進し十四日約一団の敵を攻没して觀城を占領せり此間南樂支隊は十四日南樂に、清豊支隊は十五日約二団の敵を攻没して清豊を占領せり

才十四日蒲田館支隊は十二月十二日大名南方衛河を強行渡河して南岸を占領し苑家堤附近に架橋せり

才百人部団の衛河南岸地区進出により津陽附近に在りし宋哲元軍は蒲封北方柳園口蒲封西北方陳留口及東明北方高村集の各渡場より黃河を渡河し退却せるを以て茲に軍の宋哲元軍掃蕩戦を終り新配置に就く為十二月十日軍は命令を下し才百人部団をして觀城清豊の隸以北に兵力を集結し大名を経て順徳附近に掃蕩するの準備をなさしむ夫宋哲元軍掃蕩戦に於ける各兵団の死傷並敵に与へたる損害別表の如し

才宋哲元軍掃蕩戦経過概要別紙要図の如し

別表

		宋五元軍掃蕩戦戦死田籍改表		才一軍軍医部調			
		区	分	戦	死	戦	傷
	才十四師団				七五		四三三
	才百八師団				一八九		五五一
	軍直屬部隊				〇		一一二
	計				二六四		九九六
備考	本表は各師団の報告により調査したるものなるを以て必ずしも正確を期し難し						

		宋哲元軍掃蕩戦収に手へたる損害概数表	
備考	各兵團の報告に基き記載す	区分	押収兵器
		才十四師團	七五〇〇
		才百八師團	一三五〇〇
	計		二一〇〇〇
			後に編めて記載す

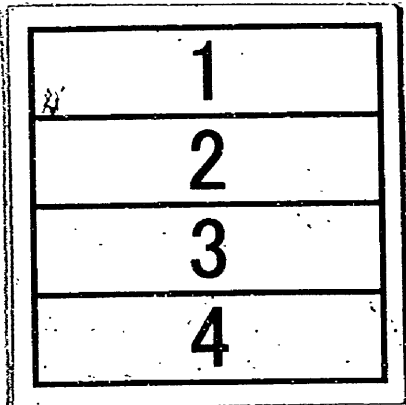
六四

考 査	調 査 月 日	砲 彈				砲				銃		品 目
		手 榴 弾	野 山 砲 弾	迫 撃 砲 弾	小 銃 弾	野 山 砲	迫 撃 砲	歩 兵 砲	機 關 銃	小 銃	兵 隊	
一、本表の数量は各隊の報告のみならず、依るものにして使用に堪へず棄却したるものを含む 二、本表外に未報告の備自隊にて使用中のもの多岐ある見込	十月二十九日	4284	418	280	253,087	8	0	0	17	103	6D	
	十一月二日	2502	1365	2376	192,370	17	10	1	12	17	14D	
	十一月十五日	24,536	2999	3449	2281,698	23	0	0	113	3019	20D	
	十一月二十三日	1100	0	496	108,700	0	0	0	18	218	108D	
	十一月二十六日	30	20	110	38,195	0	0	0	0	3	109D	
	十一月十八日	42660	3181	24214	864,526	254	560	160	933	16,237	5D	
	十一月十日	4802	2195	7929	311,505	11	2	3	11	918	部兵隊	
	十一月二十九日	3763	1503	580	74,808	1	0	0	10	32	其他	
		83677	11681	39434	4,134,889	314	572	169	1,114	203,47	計	
		大部分は木柄手榴弾	防空砲弾を含む	小銃弾、機関銃弾等	野砲、山砲、十二冊等	新旧八二五七一二種迫撃砲	平曲対戦車弾射等	マキシム機関銃等	経機高射機関銃自動小銃	各種小銃を含む	捕	

才一軍主要押収兵器一覽表

十二月十日
才一軍兵器部

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版以上のため
文書等名	第一軍宋哲元軍掃蕩戦作戦 一覽図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

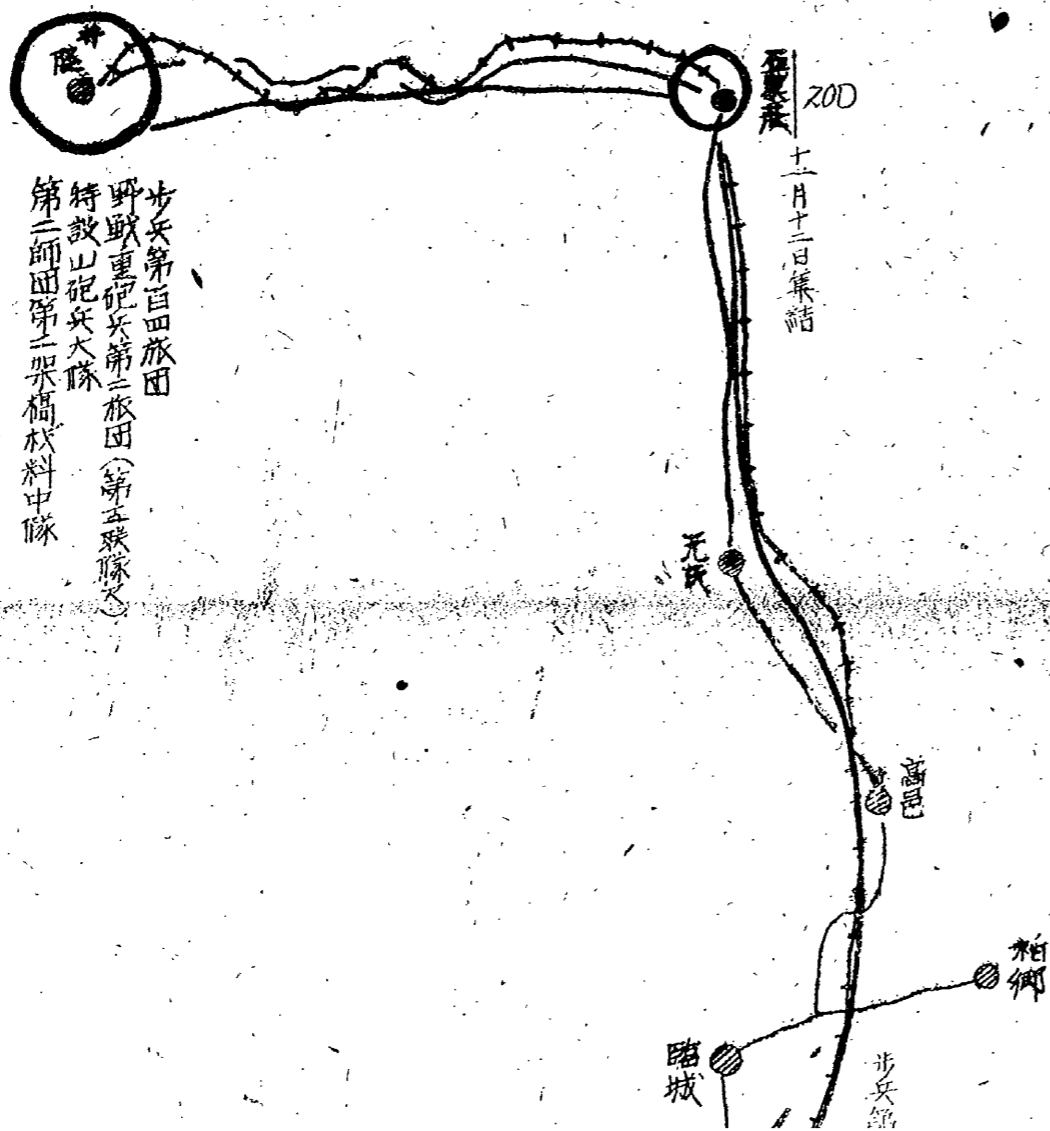
1553
1554
1555
1556

第一軍宋哲元軍掃蕩戰作戰一覽圖

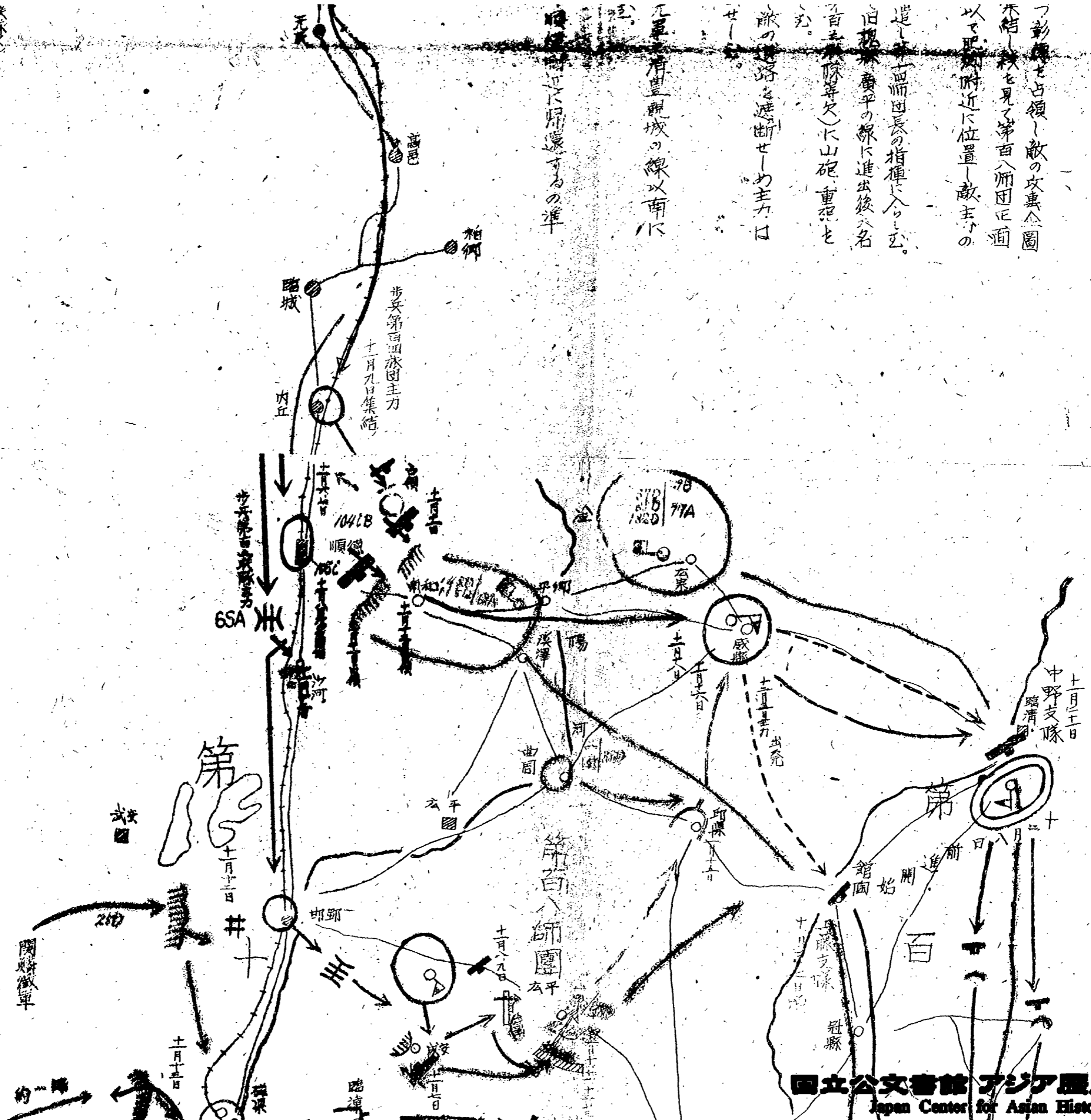
(自十一月四日至十二月十五日)

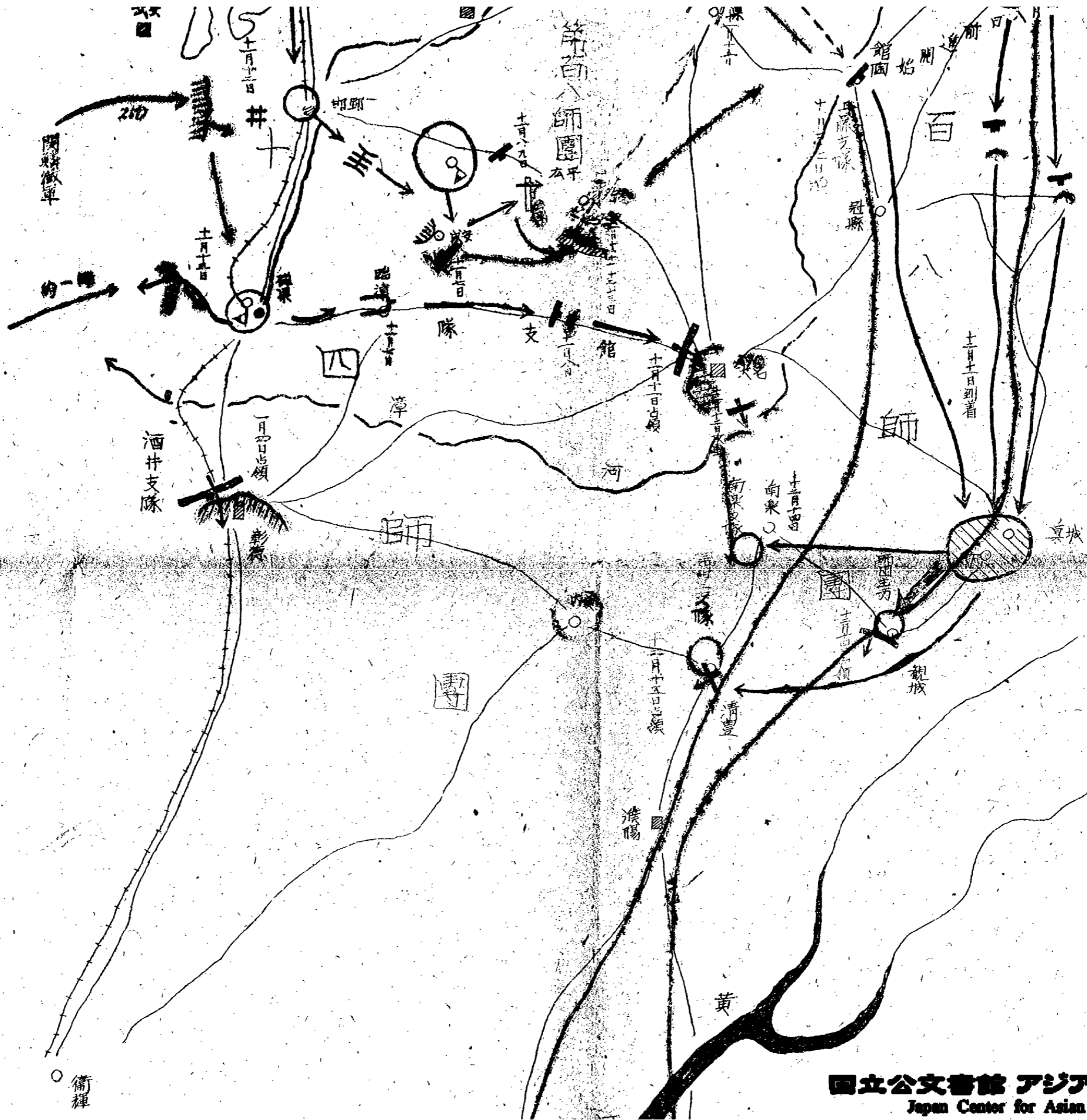
備考

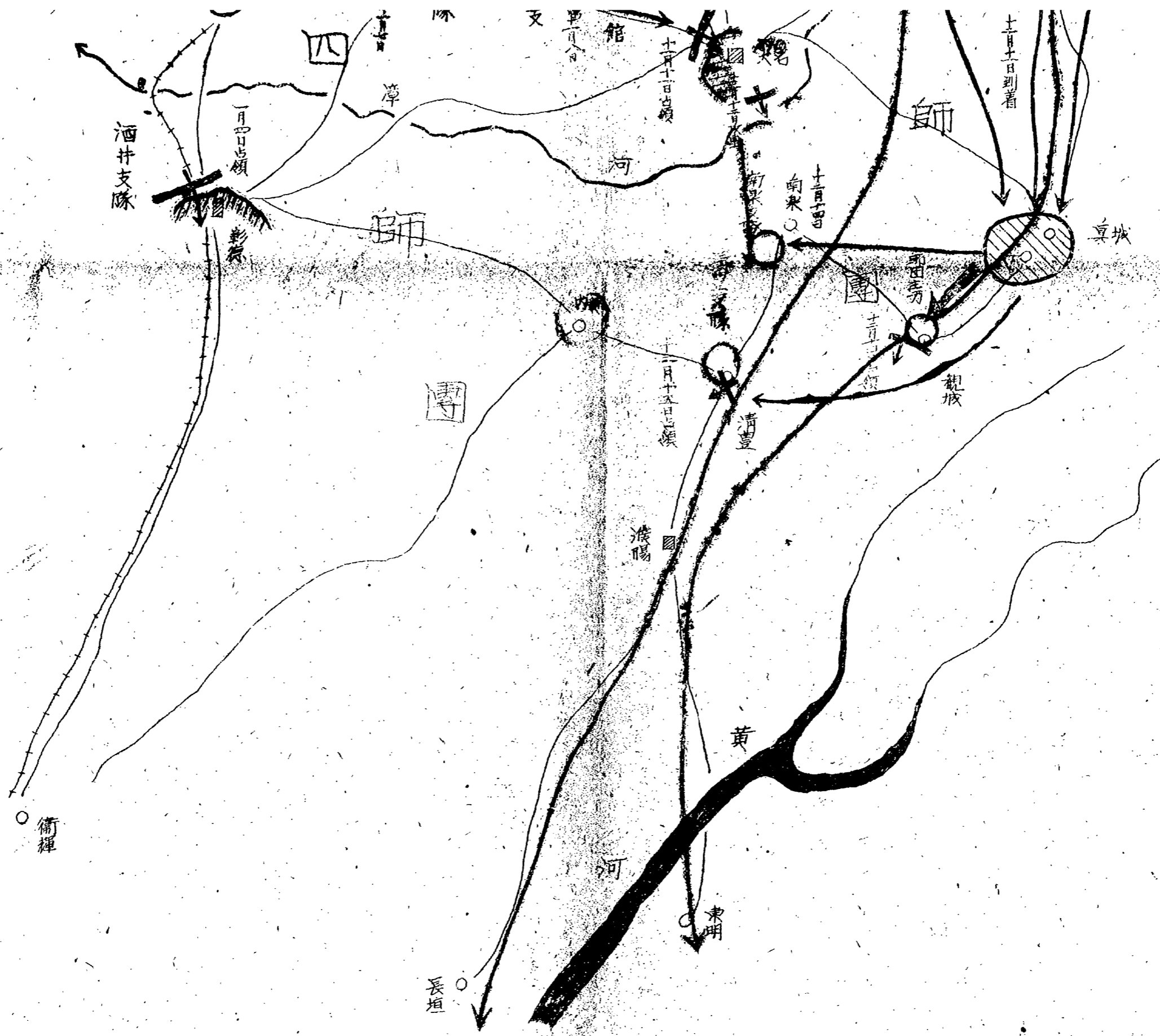
- 一 軍は十一月三日宋哲元軍の近接を待て之を裏滅するに決し第十四師団をして先づ彰徳を占領し敵の攻襲企圖を裏滅したる後一部を以て全地を確保せしめ殘存主力を邯鄲磁縣臨漳の間に集結し候を見り第百八師団正通の敵の背後を攻襲し之を裏滅せしめ第百八師団をして一部を以て成安附近主力を以て肥鄉附近に位置し敵主力の近接を待て之を攻襲し廣平附近に裏滅せしむ。
- 二 軍は十月四日石家荘に集結しありたる歩兵第百五旅隊(約半部欠)等を順德に派遣し第十四師団長の指揮に入らしむ。
- 三 軍は十月四日進んで第十四師団を以て当面の敵を攻襲するに決し兩師団をして旧魏縣廣平の線に進出後八名攻襲の準備をこころしむると共に當時井陘附近附近にありたる歩兵第百四旅隊(歩兵第百五旅隊等欠)に山砲重砲を配屬して内邱に鉄道輸送後南和附近に現れし敵を攻襲し雞沃以南に裏滅せしむ。
- 四 軍は十一月九日第十四師団をして大名を攻略せしめ成功後は一部を以て同地を確保し敵の退路を遮断せしめ主力は磁縣附近に復歸せしめ第百八師団は廣平占領後は邱縣方向に向ひ敵主力を攻襲せしむ。
- 五 軍は十月十四日第百八師団をして威縣に向ひ追襲せしむ。
- 六 軍は十月二十四日第百八師団をして準備完了後衛河兩岸に裏退せしめられたる宋哲元軍を清豐觀城の線以南に裏滅せしめ第十四師団をして大名に在る一部を以て第百八師団の作戦に協力せしむ。
- 七 軍は十月二十日第百八師団をして十二月八日以後前後の戦行動を開始せしむ。
- 八 軍は十月二十日第百八師団をして觀城清豐の線以北に兵力を集結し大名を経て順德附近に歸還するの準備をこころしむ。



つ彰傳を占領し敵の攻妻公圖
 未結し敵を見て第百八師團正面
 以て肥前附近に位置し敵軍の
 遣し第百八師團長の指揮に入りしむ。
 旧松本廣平の線に進出後六名
 首を敵隊等々に山砲重砲を
 敵の進路を遮断せしめ主力は
 せしむ。
 元軍は有豊親城の線以南に
 退却し肥前に帰還するの途に







才六軍 十二月下旬に於ける軍の態勢

十一月十五日方面軍は現占領地域の確保安定を計ると共に軍隊の整備及戦力の恢復を図り兩方に対する次期作戰を準備せんとし才一軍は太原平池及作戰地域内主として主要交通線附近の確保安定に任ずべき任務を与へられ且才五師団を保定附近に集結せしめられ其集結後各方面軍の直轄となすべきを示されたり

二軍は十一月十六日命令を下し太原平池方面の配置を定む其要旨左の如し

一 軍は才百九師団及才二十師団を以て北平太原平池を確保し敵の反攻に際しては之を攻逐し兩部太原平池に於て殲滅す

二 才百九師団は太原附近を守護し兩方に対する攻勢拠点として各々一部を以て清源及徐溝を保持す

三 才二十師団は主力を以て滄次附近を歩兵四大隊を基幹とする兵力を以て陽泉、昔陽附近を守護し兩方に対する攻勢拠点として一部

を以て太谷を保持す

六七

各師団の作戦地境は河樹底（開城鎮東、南方約二十三村）陽設鎮、六堡鎮、集義村、祁県、祁県——文水道上汾河渡河点、汾河の線とす（線上は左師団に属す）

各師団は其作戦地城内の安定に任じ且鉄道を警備す
三、軍は十二月十三日命令を下し河北平地方面の配置を定む其要旨左の如し

一、軍は才百八師団の警備を濶とし才十里師団及才百八師団を以て河北平地境占領地境を確保す

二、才十里師団は邯鄲、彰徳、大名の間を守備し其の南方又は東方よりする大規模の反攻に對しては主力を以て平漢鉄道方面より有力なる一部を以て林県——輝県方面より新鄉平遠に作戦し得るの準備を行ふ

三、才百八師団は主力を以て高邑、順徳の間を守備し歩兵二大隊を基

幹とする兵力を臨清に位置せしめ衛河、渡河点を確保す

4 才百八師団の歩兵一聯隊、野砲一中隊及重砲一中隊は石家莊附近に集結し軍兵站管に配属す

5 兩師団の作戦地境は章庄（武安西北方約十二軒）臨汾關、永年、南轄陶、滎渠の線とす（線上は才十四師団に属す）

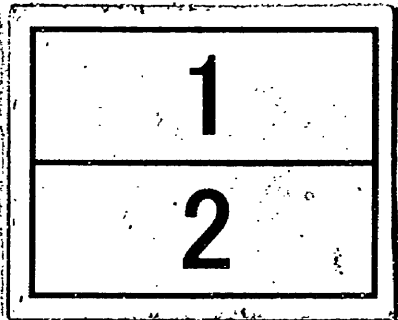
6 各師団は作戦地域内の安定に任じ且鐵道を管備す

四前二項の軍命令に基き太原平地方面に在りては十二月十日頃、河北

平地方面に在りては十二月二十八日頃配備を完了せり

五十二月末日に於ける才一軍の配備別紙要図の如し

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3版以上のため
文書等名	第一軍配備要図 (杉十二月下旬)
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

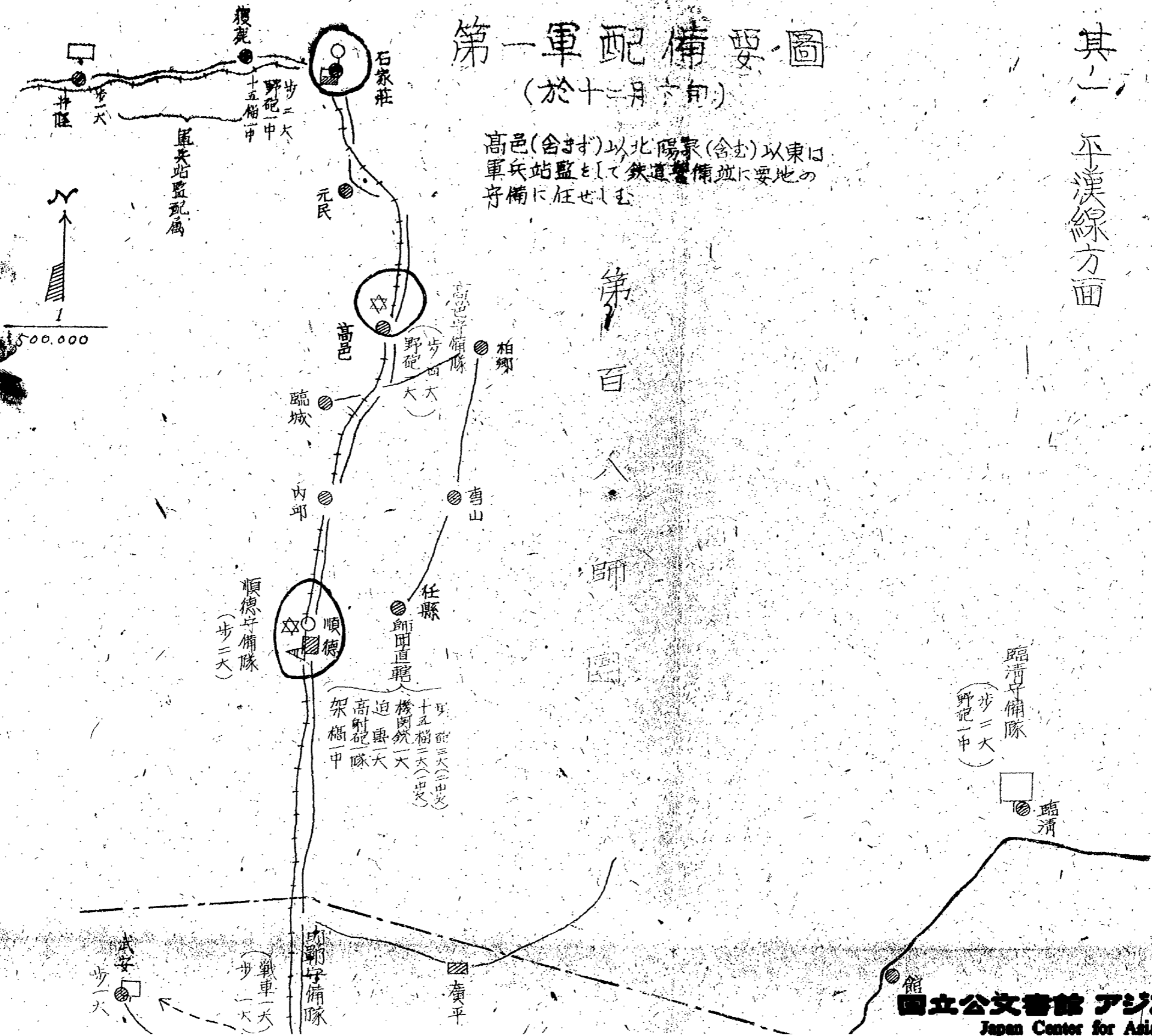
第一軍配備要圖

(於十一月下旬)

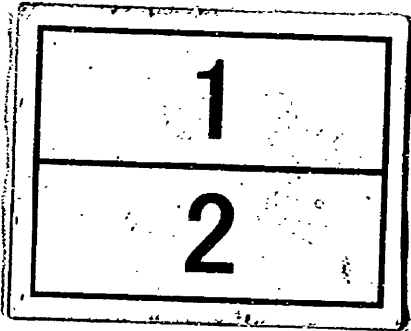
高邑(含封)以北陽泉(含古)以東は
軍兵站監として鉄道警備並に要地の
守備に任せしむ

其一、平漢線方面

第一〇八師團



分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3版以上のため
文書等名	第一軍配備要図 (於十二月下旬)
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

山西方面

1
500.000

